か

クイックUSB
計量値をUSB経由でパソコンに送信する機能。ドライバーは不要。簡単にExcelやWordなどに入力が可能。

繰り返し性
同一の質量を繰り返し載せ降ろししたときの測定値のバラツキであり、通常「標準偏差」で表現。
例）標準偏差 ＝ 0.1 mgのとき、同一の計量物を繰り返し測定した結果が約68 %の頻度で±0.1 mgの範囲内に入ることを示す。

計数可能最小単重
記憶可能な、サンプル1個あたりの最小の重さ（単位質量）。

検定付（検定済品）
計量法により定められた基準を満たしていることを判定する検査に合格していること。 検定に合格しているはかりのこと。

校正用分銅（こうせいようふんどう）
電子天びんを校正するために用いる精密な分銅。

コンパレータ
計量の上限・下限を定めてそれぞれと計量値を比較し、その結果を表示する機能。 出力も可能。

さ

シーケンス制御（Sequential Control）
あらかじめ定められた順序または手続きに従って制御の各段階を逐次進めていく制御。

使用範囲
取引証明において、計量法上有効な（使用して良い）計量の範囲。

シリアル
電気通信において伝送路上を一度に1ビットずつ、逐次的にデータを送ることをいう。 USB、RS-232C、イーサネット（100 Baseまで）など。

スマートレンジ
計量範囲と表示分解能の組み合わせにより、重い容器にのせた微量のサンプルを精密に計量。「標準」及び「精密」2つの計量レンジを持つ機種に搭載。

た

耐圧防爆（たいあつぼうばく）
着火源となる電子機器を入れる容器そのものに防爆性能を持たせることにより、容器内部で爆発が生じても、容器の外部には爆発が及ばないようにした構造（全閉構造）で、内部爆発に耐える容器の強度と容器の隙間から火花等が外部へ着火しないような構造。

データメモリ
計量値、校正結果、単位質量、上下限値、プリセット風袋値などを本体に記憶。

デュアルレンジ
ひょう量と最小表示の組み合わせが自動的に切り替わり、1台で2台のはかりのように使用可能。

統計演算機能（とうけいえんざんきのう）
本体に、計量値の合計・最大・最小・範囲（最大－最小）、平均、標準偏差や変動係数を表示・出力する機能。

動物計量
動いていて計量値が安定しにくい動物などを計量する機能。
計量値の平均をホールド可能。

取引証明
取引：量り売りや調剤など。 証明：病院や学校などでの身体計測など。

トリプルレンジ
ひょう量と最小表示の組み合わせが自動的に3段階に切り替わり、1台で3台のはかりのように使用可能。

は

パラレル
複数のデータ信号を同時並行的にそれぞれの通信リンクで送る通信方式のこと。 イーサネット(1000 BASE-T) など。

比重（ひじゅう）
試料の質量と、それと同体積の圧力1013.25 hPaのもとにおける4°Cの純水の質量との比のこと。

比重測定
比重測定キットと電子天びんを組合せ、アルキメデスの原理を応用して測定する。

風袋（ふうたい）
計量物の袋や皿など、計量する対象物以外の重さのこと。先にその皿などを載せて、計測値を0にすることを風袋引きという。

風防（ふうぼう）
風の影響を受けて計量値が変化するのを防ぐため、計量部分を囲うもの。 導電性ガラス製の場合は、静電気の影響も軽減することができる。

分銅内蔵（ふんどうないぞう）
計量器を校正する分銅が計量器本体の中に内蔵してあること。

本質安全防爆
電子回路において発生する電気火花が着火源として作用しない（又は高温にならないような低い値）もの。 防爆仕様の電子回路設計により、危険な火花や高い熱が発生されないような構造。

ま

密度
試料の単位容積にふくまれる質量のこと。

目量（めりょう）
取引・証明用はかりの読み取り限度（最小表示）のこと。

や

床下ひょう量（ゆかしたひょうりょう）
磁気をおびたものの測定や比重測定のため、計量皿の上ではなく、試料を計量機構に吊り下げて測定すること。